

## 学校における「教育の情報化」～近い将来の学校の姿はどうなるのか？～

校長 谷口源太郎

「GIGA（ギガ）スクール構想」という言葉をマスコミや様々な場面で聞かれた保護者の方も数多くいらっしゃると思いますが、**GIGA スクール構想**とは、（**G**lobal and **I**nnovation **G**ateway for **A**LL）の頭文字を取った言葉で、すべての児童生徒に1人1台のタブレット pc 端末と高速ネットワーク環境を整備する計画のことを意味しています。新学習指導要領では、「情報活用能力」の育成を身に付けるべき資質能力の基盤にして取り組んでいくことにしており、すべての教科領域の中で ICT 機器を積極的に活用した授業が今後益々行われていくことになっています。【図1】

本校でも昨年度末までに子ども1人1台のタブレット型パソコンが配備されており、これからの情報化社会・デジタル社会に主体的に対応できる子どもを育成するために、少しずつですがその取組を始めたところです。授業参観等でも子どもたちがタブレット PC を自由自在に使いこなしながら学習している様子をご覧ください。ただけのことと思います。

一方、教科書についても、現在、教師は指導者用デジタル教科書を使用して子どもたちに指導していますが、子どもたちの教科書も紙の教科書からデジタル教科書に変わっていくことになります。しばらくは、紙とデジタルの教科書が併用されますが、最終的にはデジタル教科書に移っていくことになります。昨年秋に萩生田文科大臣とデジタル改革担当の平井大臣が会談した記事が掲載されていました。2024年度を目途に**児童用デジタル教科書**の本格導入を目指していくことが見込まれています。タブレット PC からクラウドにつないで画面上の教科書を読むことになります。そんな時代が近い将来学校現場にはやってくるのです。【図2】

学校と家庭間をつなぐ**デジタル通信システム**についても今後大きく変わっていくことが見込まれています。現在使用している「**安心安全メール**」を活用して保護者がスマホから学校に欠席の連絡をメール送信したり、学校が保護者にペーパーで依頼している承諾書は押印をなくしてメールで回答したりするなど、できるところから少しずつ始めていく予定です。そうすることで学校と保護者間の連絡事務の効率化、簡素化が図られていきます。【図3】

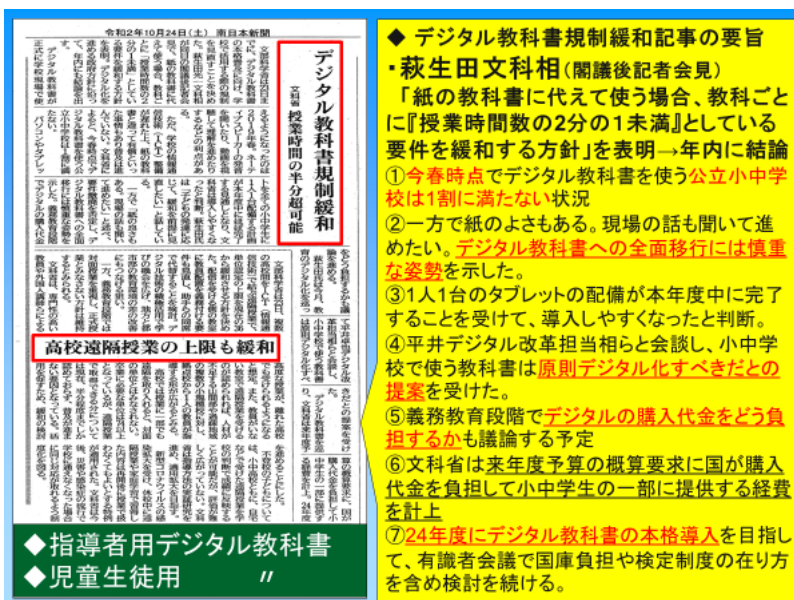
さて、昨年度の児童を対象に実施した「**インターネット利用等に関する調査**」によると、すでに家庭にネット環境があり、自分専用のネット接続機器を所持してネット検索をして調べ物をしたり、友達とオンラインでゲームを楽しんだりしている子どもが数多くいることが分かっています。その中で気になることは、回答者554人のうち、平日の使用時間（4時間以上～5時間未満：3人、3時間以上～4時間未満：12人、2時間以上～3時間未満：26人、1時間以上～2時間未満：93人）という実態（約4人に1人が平日家庭で1時間以上インターネットを利用している）が明らかになったことです。平日に帰宅してからインターネットの利用時間が長いと、当然のことながら家庭学習の確保が困難になり、睡眠時間にも影響が出てきます。私はこれまでにゲームやネットの過剰利用により昼夜が逆転し日常生活に支障をきたし、それが原因で不登校になった事例、多額の課金請求を受けた事例、ネット上で知り合った人と会った事例など様々なトラブルを目の当たりにしてきました。家庭内ルール（使用時間の制限、使用場所の制限、毎月の料金の制限、家庭内での保管場所、接続先の制限、保護者が接続記録を確認、利用マナーを決めるなど）は、親が一方的に決めるのではなく、親子でよく合って決めることが大切なポイントです。これからの情報化社会、ネット社会でよりよく生きていくためには、情報モラルに配慮した使い方や日常生活の中で健康を害さないよりよい使い方を身に付けていかなければなりません。

このように学校現場では、文科省だけでなくデジタル庁や経済産業省も加わって日本社会のDX（デジタル・トランスフォーメーション：デジタル化して業界全体を変革していくこと）を進めていこうとしています。教育界のDXの動きを見据えながら教職員も保護者もICTリテラシー（より専門的な「知識」「応用力」「活用能力」）を高めながら子どもたちにかかわっていくことが必要です。

【図 1】



【図 2】



【图 3】

